

4つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております



小手澤の森
第1・3日曜日



知足の森
第1・3日曜日



相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模

midorinodam.jp



No.603-604

林業のプロの方から間伐指導をしていただきました

【定例活動報告】

今年度も無事に活動を終わることができました。中高生が多い本会にとっては、本当に多くの方のご支援、ご指導あったことです。この場を借りてお礼申し上げます。新年度4月から新しいプロジェクトのお誘いもいくつかいただいております。公表できる順番に本会ホームページやSNS等でご報告していきます。

私がこの活動に参加したのは教員になった年、2003年です。学生時代は損保ジャパン環境財団（当時の名称）の活動に参加しており、その支援先の一つであった本会と巡り合ったということからでした。その時、同財団でお世話になった方から、本会が活動する相模原市と同じ青根という地区で廃中学校を活用した活動が始まるということでお誘いを受けました。その

緑のダム北相模は相模原
市内で活動する森林ボラ
ンティアです。急がず、無
理せず、楽しく、休ま
ず、ボチボチと・・・



時、現地の林業者さんのサトウ草木さんをご紹介します。本会とも長くお付き合いがありましたが私は初めてお会いし、そのお人柄に勝手に感動し、今回、本会の中高生にも、その感動を、と無理言ってご指導をお願いしました。2回の指導では、きっとこんなお話を、と欲していた以上に技術面だけでなく、森に対する考え方や捉え方のお話をしていただき、この時の中高生の感想は日々の活動とは違ったものでした。次の段取りを考えて行動する、森の神様はみんな〇〇、、、などなど。今後ぜひお付き合いいただき、危なかつしい我々をご指導いただければと思います。

続き、こちらもお誘いいただいていたこがねい環境フォーラムにも出展いたしました。今年度から運営団体が東京学芸大こども未来研究所となったため、本会の活動をよくご存知で、積み木、もりのえんにちセット、ボードゲーム、さらに中3卒業生の卒業記念出展である森の木琴ワークショップもさせていただきました。木琴の詳細報告は4ページ目にありますが、さすが3年生という段取りでした。企画、チラシ、必要な材料、道具類、あつという間に準備がすすめられ、私が出る順番はありませんでした。さらに同日行われた同市のはげの美術館周辺を対象にしたフォトコンテスト「ずっ木ゅんフォトコン」表彰式もあり、GTEラボ中2女子3名が市長から表彰いただき、記念の木製表彰状をいただきました。年度末ではありましたがこのように充実した活動をさせていただきました。来年度も活動を続けていきます。今後ともご指導ご支援どうぞよろしくお願いいたします。

宮村 連理 (本会、副理事長)

【定例活動報告】 知足の森

今日は午前森の中の整備を行った。斜面で作業を行うため、石などを下に転がしてしまう危険があった。だから縦(上下)に連なって作業しないように注意した。作業をしていると一点に夢中になってしまうため、周りが見えなくなることがよくあった。これからは周りを見ながらできるようにしていけたらいいと思う。また周りを見ないとたくさん木を切ってしまう、そこだけスカスカになってしまうこともあった。どれくらいがいいのか手加減をしながらやっていきたい。午後は、種から育てたセンダンの苗を植樹した。植樹のポイントとしては斜面に植えたため、地球に対して垂直に植えるように気をつけた。植樹をしながら1cmほどの種の大きさから高さが70cmほどに育ったことにジワジワと達成感を味わえた。センダンは落葉樹なため、今は葉がまったくない。もっと春がすすんだ頃、新しい芽が成長すれば冬を乗り越えた証拠となる。楽しみにして待っていたい。

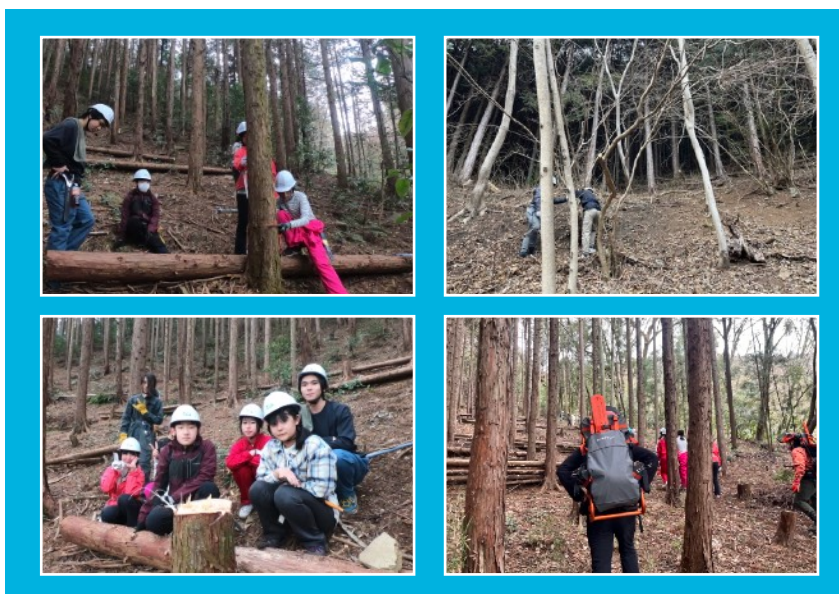
築地 真帆 (GTE LAB 中学3年女子)

私がサトウ草木の佐藤さんから学んだことで1番印象に残ったのは、チルホールの使い方です。チルホールは使う機会があまりなく、自分で設置したこともなかったため、どのように使えばいいのかあまりわかっていませんでした。今回得られた知識を忘れないように、しっかり確認していきたいと思います。また、全員が作業を把握していれば、先々の事を見据えてスムーズに作業を進めることができることが分かったので、今後の活動に反映させていきたいです。

鈴木 友結 (GTE LAB 中学3年女子)

特に印象に残っているのはチームの流れを円滑にする、ということです。今までは動き方がわからずに同じチームの人と固まってしまうということも多かったのですが、これからはまわりを観察し次はこれをやっておこうなどチームの流れに貢献できるような動きをしていきたいです。他にも、ノコギリの持ち方や木の倒しやすい方向の見分け方など多くのことを学ぶことができました。

熊谷 碧 (GTE LAB 中学3年女子)





桜井尚武の 森のコラム

「ヤブデマリ (*Viburnum plicatum* var. *tomentosum*)」



図1 ヤブデマリの葉 20220508

雷電山 青梅東京



図2 ヤブデマリ 20220508

雷電山 青梅東京



図3 ヤブデマリ 20130519

嵐山相模湖



図4 ヤブデマリの果実 20210718

底沢相模湖



図5 オオデマリ 20230428

サンフランシスコ

スイカズラ科の樹高が4mから5m程度になる落葉低木で山地の樹陰下、特に沢沿いに多くみられます。葉は広楕円形で対生し星状毛を散生します。小さい鋸歯がある葉の先端は尖ります。平行に揃って並ぶ即脈が目立つのがこの樹種の特徴です(図1)。花は白く5月から6月に枝の先につき、これがたくさん並ぶのが見事で目立ちます。散形に出る花序の外側は装飾花で無性花、一つが小さく不揃いに5深裂して、花弁のない両性花を包み込むように広がります。

花序は6cmから9cmと大きいので目立ちます(図2、3)。はじめてこの花を見た時には自然のままでこんなにきれいに咲く花木があるんだと感激しました。

果実は他のガマズミ属のように夏には赤く熟します。食用になるなどの記載は見当らずあくまでも花木として利用されているようです。赤く熟した果実は後に黒熟するそうです。分布範囲は関東地方以西の本州、四国、九州、朝鮮南部、台湾、中国ですが、青森から北陸地方には毛の少ないケナシヤブデマリという品種があるそうです。

庭木などとしてよく見られるオオデマリ(*Viburnum plicatum*、テマリバナ)は学名上は本種の母種とされています。これは、最初に記載されたのが園芸品であった(と思われる)オオデマリで、後にヤブデマリと同じ種であるとされたからなのだそうです。一度決められた学名は簡単には訂正できない決まりなので野生種が園芸種の変種扱いになっているということがあるんですね。図5は昨年行ったサンフランシスコの街中で撮ったものですが、もちろん関東地方でもあちこちの庭などに植えられているのを見かけます。てっきり外国から(特に中国あたりから)移入されたものと思っていましたが、日本の自生種に由来するものだと、この稿を書くために調べた資料で知りました。

桜井 尚武(本会、会員)

【活動報告】 こがねい環境フォーラムに出展しました

3月10日に宮地楽器ホールにて環境フォーラムが開催されました。それぞれが射的やパズルなど様々な企画を行っていたなかで、私は小学生を対象に木琴作り体験を行いました。今回準備した木琴は、木でできた枠と長さの違う木の棒を使って作ることができます。木の棒は木琴の鍵盤部分になる材料ですが、叩いた時の音の高さを木の棒の長さを調節することで変えることができます。準備の作業は板からいろいろな長さの木の棒を切り出すために、板にたくさん印をつけ、電動のこぎりで切る作業の繰り返しで手間が多かったですが、チームで役割分担することで手早く行うことができました。当日は多くの方に参加していただき、用意していた人数分全てを使いきれました。なかなか小学生と触れ合う機会がなかったので接し方や説明の仕方などを気を付ける場面もあり勉強になりました。今回の経験を今後の活動に生かしていきたいです。

木村 夏月（東京都立西高等学校1年）



参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランティア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人

緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模

現地事務局：〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内

支援団体：セブン-イレブン記念財団

積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア

協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、

東京学芸大学環境教育研究センター、

(社) 東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、

(社) さがみ湖 森・モノづくり研究所



緑の募金



一般財団法人
セブン-イレブン
記念財団



SEKISUI HOUSE
MATCHING PROGRAM

